

# 球形で休憩

## オフィス街にオアシスを

私たちは、各々の将来を見据えて就職を意識している学生である。

そんな私たちがインターンシップへ参加させて頂いた今夏、感じたことがある。

例えば昼休み、オフィスから出ることなくデスクの周辺で休憩が済んでしまう。

例えば仕事終わり、憩う間もなく帰路につく。

得ることは多かったけれど、「働く」ことに息苦しさも感じてしまったのだ。

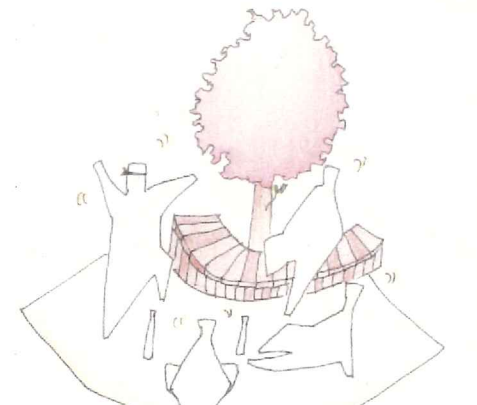
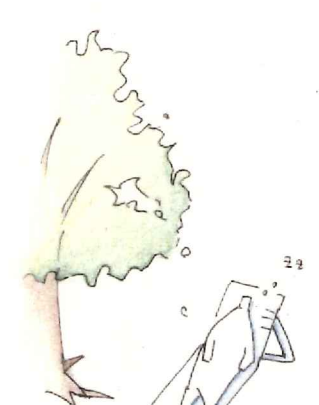
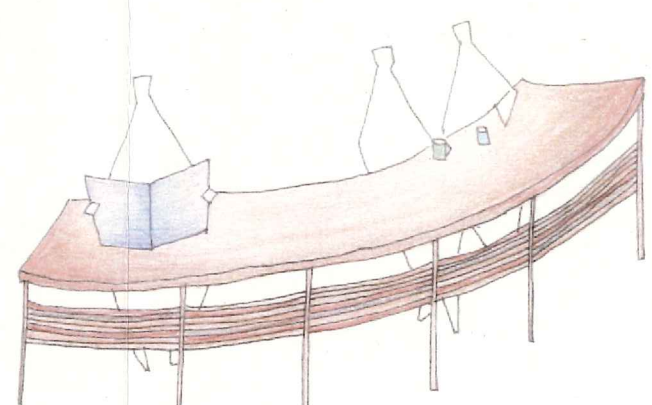
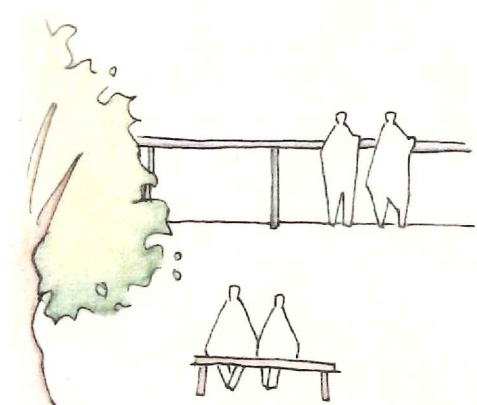
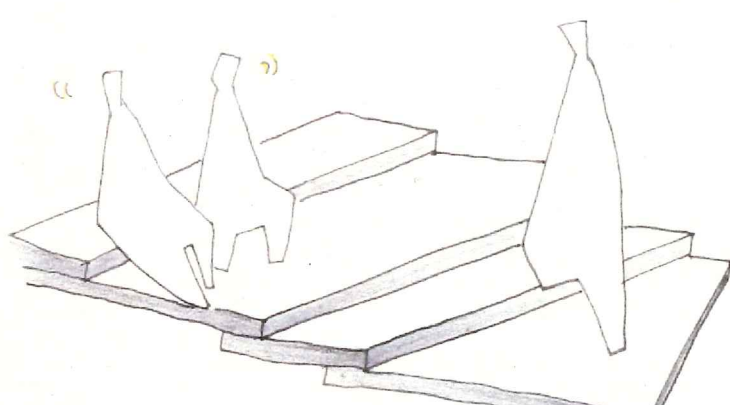
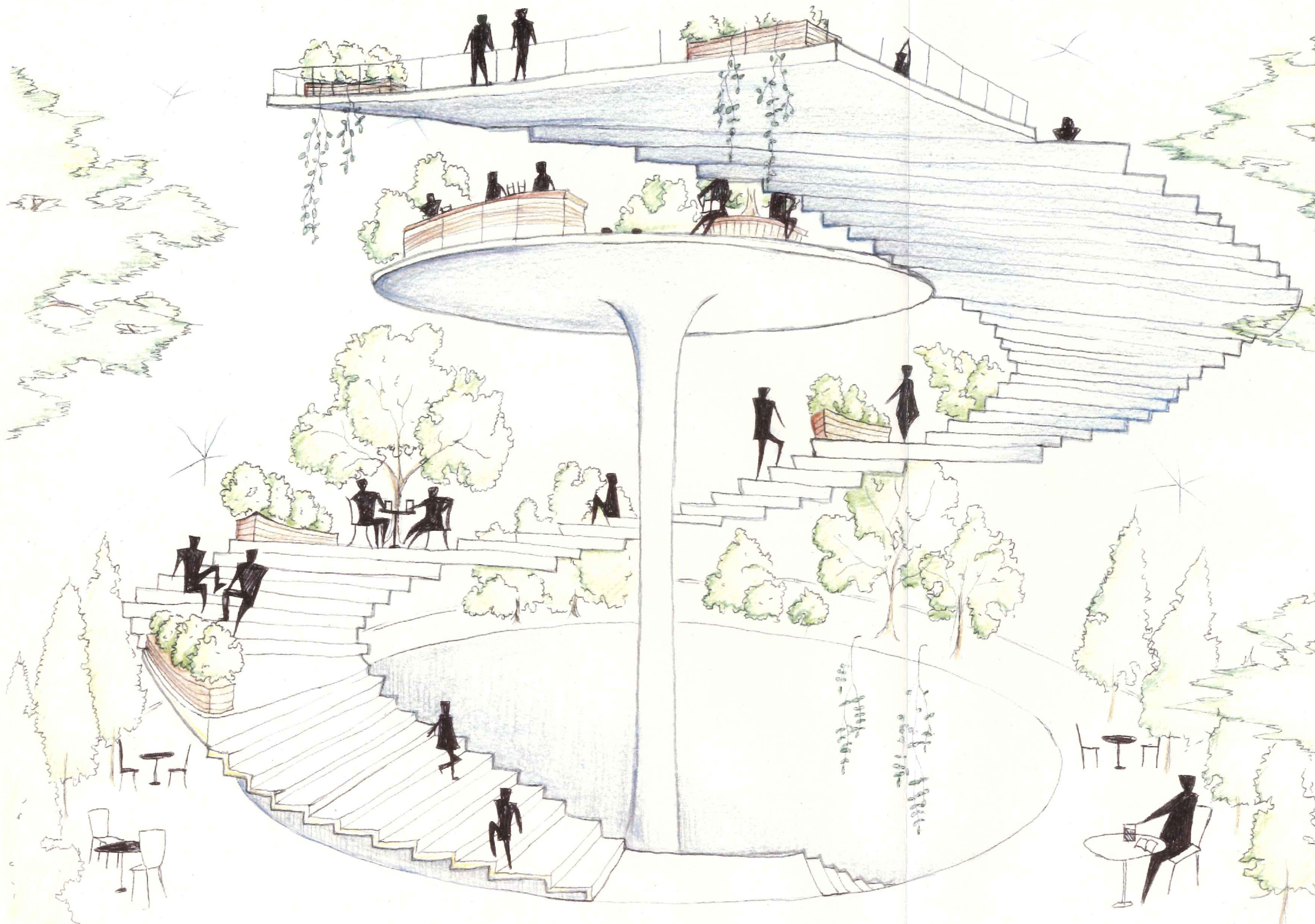
そんなことではいけない！と私たちは、昼休みや帰り際に進んで足を向けたくなる、そんな「オアシス」をオフィス街に作りたくて夢を持った。

暑いはずの夏に木陰で涼しげに読書やお茶を。寒いはずの冬にこたつに入っているかのようにぬくぬくと。

まさにオアシス！

ストレス社会に疲弊した心も体も癒されるのは間違いない。

将来はそんなオアシスのあるオフィス街で働きたいものだ。



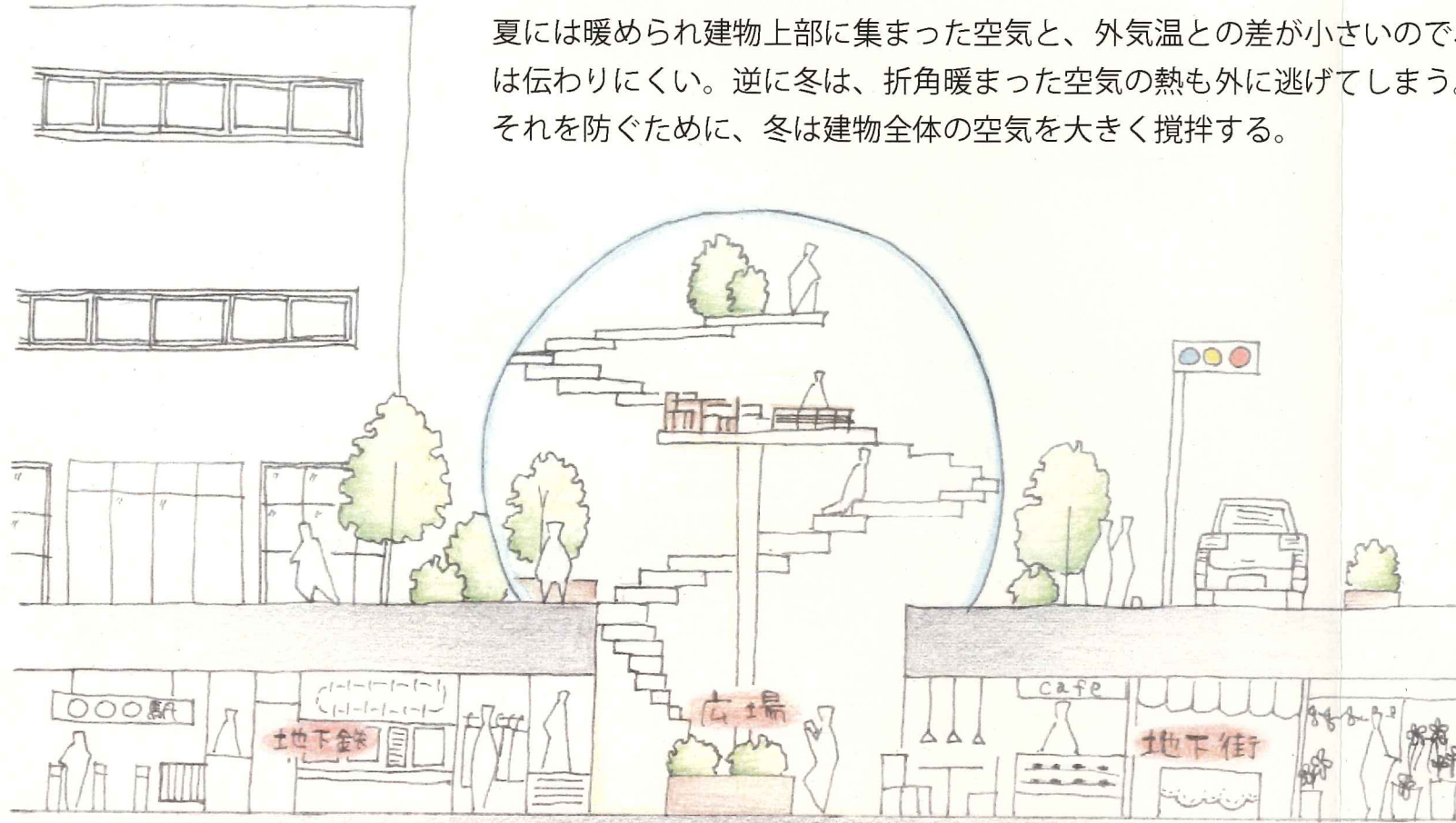
## 空気特性と循環

空気には、暖かい空気は上昇し、冷たい空気は下へ溜まるという特性がある。

これは、たとえ空調を効かせたとしても変わらない。

夏には暖められ建物上部に集まった空気と、外気温との差が小さいので、外部から熱は伝わりにくい。逆に冬は、折角暖まった空気の熱も外に逃げてしまう。

それを防ぐために、冬は建物全体の空気を大きく攪拌する。

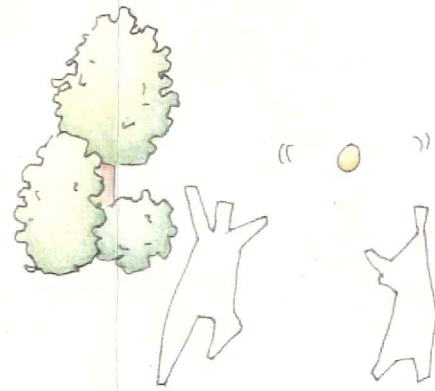
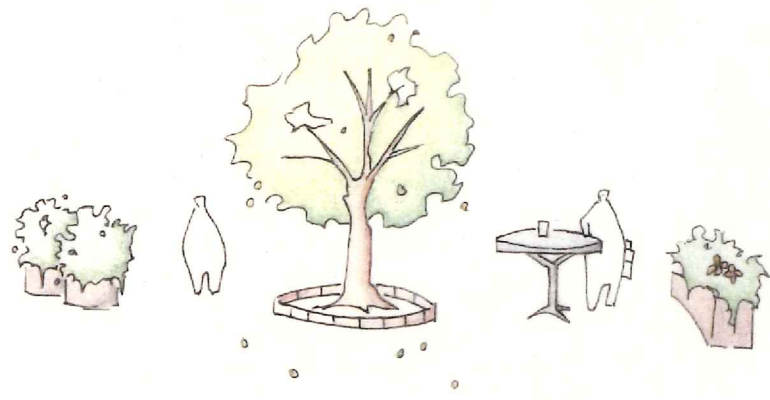
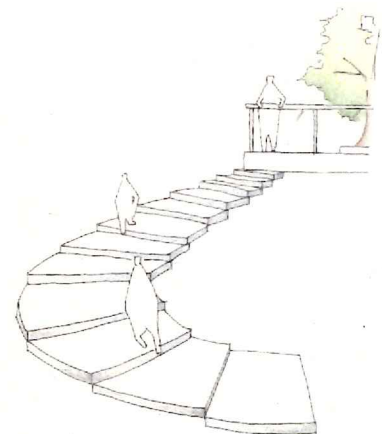
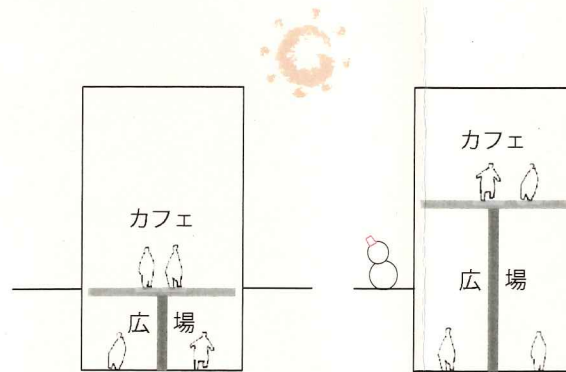


床が下に降りている夏も、上に昇っている冬も建物の地下が広場となる。

この広場が既存の地下街と繋がっていると尚いい。

外に出ることなく、避暑地・避寒地へ直行できるのは今や必須条件。

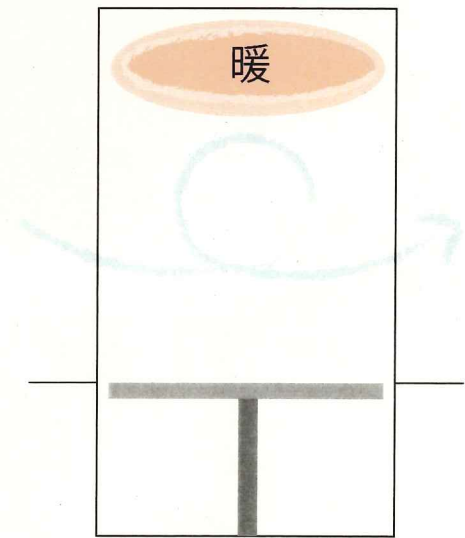
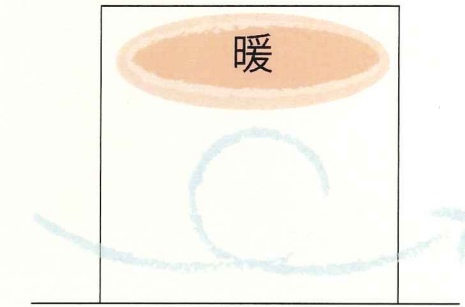
そしてこの快適な床上で惰眠を貪れるのだ！



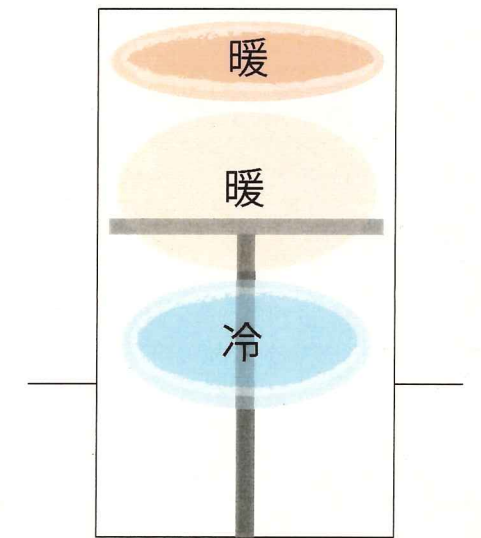
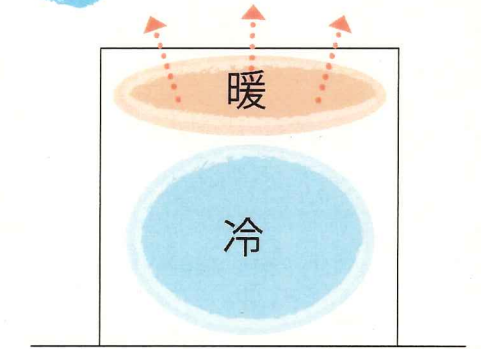
## ダイアグラム

このオアシスでは年中快適に過ごすことができる。

建物の内部が、外部の環境に適応して変化するのである。



夏は天井が高く冷たい空気の中で過ごす。



冬は床を上げ、暖かい空気の中で過ごす。

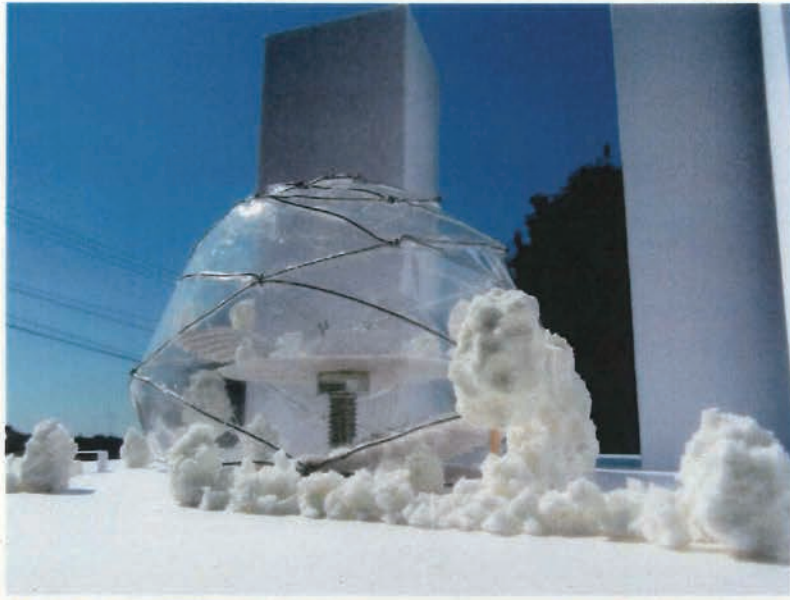


fig.1 道路より

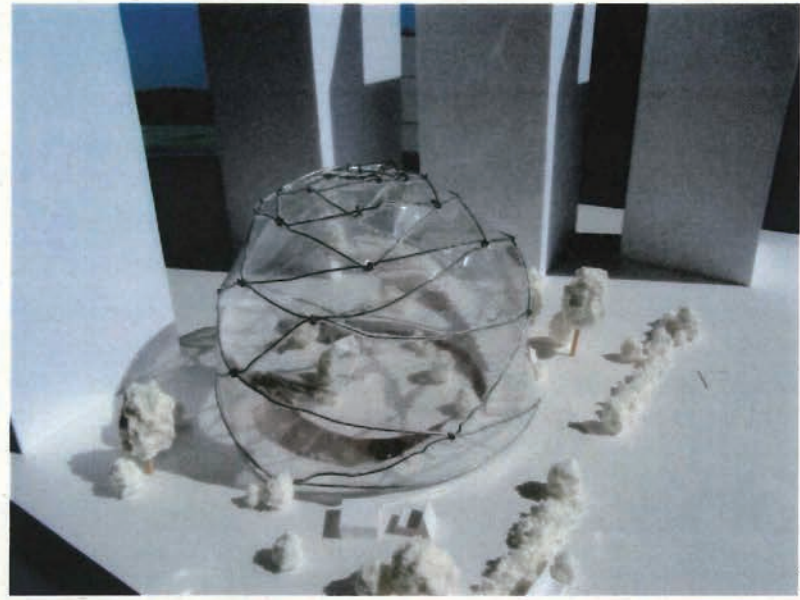


fig.3 夏 ver.



fig.2 俯瞰

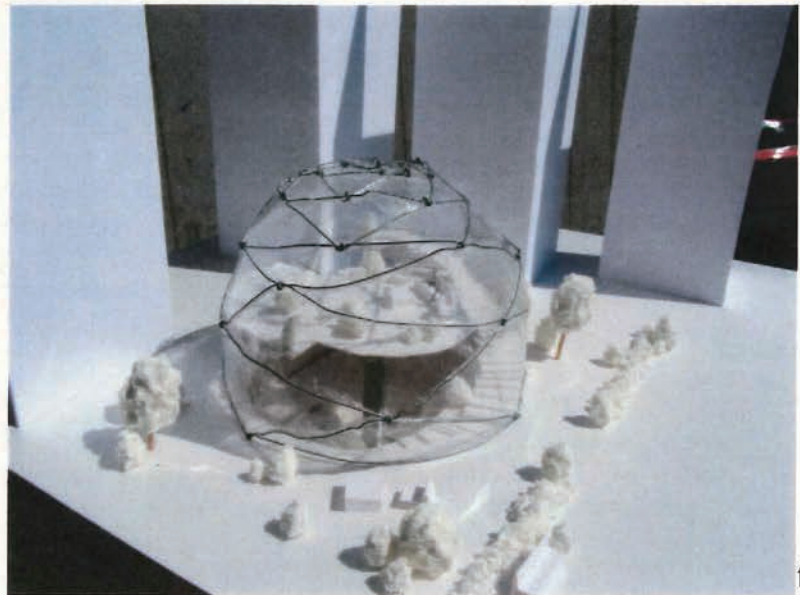


fig.4 冬 ver.